

雲仙市発掘調査速報（第1号）2006.03

国見中部地区圃場整備関連



（文化財愛護  
シンボルマーク）

文化財愛護シンボルマーク  
このシンボルマークは、ひろげた両方の手のひらのパターンによって、日本建築の重要な要素である斗供(組みものの)のイメージを表わし、これを三つ重ねることにより、文化財という民族の遺産を過去、現在、未来にわたり永遠に伝承していくという愛護精神を象徴したものです。

# りゅうおう いせき はっくつちょうさ 龍王遺跡の発掘調査

ぜんぼうこうえんふん はっけん  
—前方後円墳が発見されました—

普賢岳



(前方後円墳と普賢岳)

(真上からの前方後円墳)

長崎県雲仙市教育委員会

## ★★★ 発刊にあたって ★★★

○本冊子は雲仙市国見町土黒所在の龍王遺跡発掘調査に関する簡易な解説を目的としています。

○内容は国見中部地区県営圃場整備事業に伴い平成16年度に行った発掘調査の成果です。

○本冊子に関するお問い合わせは雲仙市教育委員会までお願いします。

## りゅうおう いせきはっくつ りゅう 龍王遺跡発掘の理由

★雲仙市には百花台遺跡などのたくさんの遺跡があります。「遺跡」とは、私達の祖先が暮らしていった当時の、住居跡や生活用具（土器や石器）およびお墓などが発見される場所です。すなわち「私達の祖先が暮らした痕跡が残されている場所」のことです。この「遺跡」から発見された「土器・石器・住居跡・お墓」などは、私達の祖先の歴史そのもので、ひいては現在まで生きている私達の歴史でもあります。発掘調査を行うと私達がどのような歴史をたどって現代まで生き抜いてきたかがわかります。このような「遺跡」は大切な歴史遺産であり、私達みんなの財産といえるでしょう。雲仙市では「遺跡」が存在する場所で、しばしば開発工事が行われます。今回の龍王遺跡の調査は、圃場整備事業の工事によって遺跡の一部が消滅してしまったために、その部分の調査を行って、私達の財産である「遺跡」の内容を記録するため、土器や石器・住居跡などを発掘しました。したがって、工事を行っても遺跡が消滅しない部分については、現地にそのまま遺跡が残ることになります。発掘調査を行った部分は遺跡全体の数 % であり、まだまだたくさんの祖先の歴史が地中に保存されているのです。

## はっくつちょうさ きほん 発掘調査の基本

★右の写真は、遺跡の土層断面です。色の違う土が何枚も重なっているのがわかります。土の色は、堆積した時代によって異なり、発掘調査はこの色の違う土層ごとに調査を行います。この土層は、下のものほど古く、上の土層になるにつれ新しくなる特徴があります。したがって、それぞれの土層に含まれる土器・石器・住居跡の時代の古い・新しいの判断は、土層の重なりをみれば一目瞭然です。



★左の写真は古墳時代の「堀」の調査の様子です。深さ約1m、幅約2mの堀の中にたくさんの土器が発見されました。これらは使用しなくなつたものを捨てたものと考えられます。堀の底には50cmほど泥がたまり、その上部で土器が見つかっています。「堀」は泥がたまって浅くなれば役に立ちません。したがって「堀」が必要なくなり、その後土器も必要なくなり捨てられたと考えられます。土の重なりや土器の出土状況でその遺跡がどのような歴史をたどってきたかが判ります。

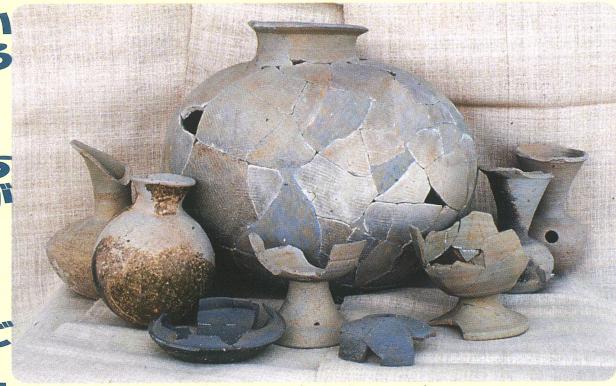
# 古墳時代に使われていた土器

今回発見された前方後円墳はおよそ1,500年前の古墳時代に作られたものです。当時はどんな土器が使われていたのでしょうか。発見された出土品を見てみましょう！

## 色の違う土器



赤や茶色の土器は「土師器」と呼びます



灰色の土器は「須恵器」と呼びます

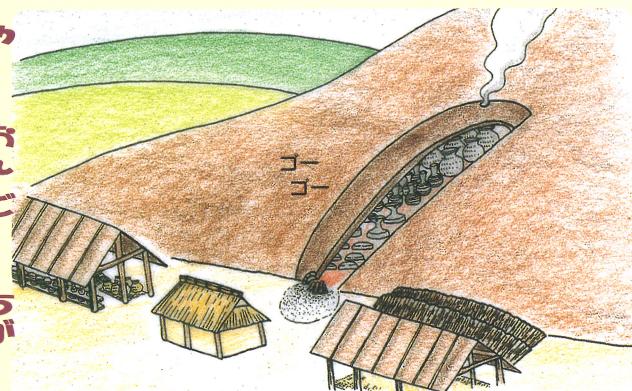
同じ時代に使われた土器なのに、なぜこのような違いがあるのでしょうか？

それは・・・作り方（焼くときの温度）に違いがありました。

## 焼く温度の違い



800度くらい



1,000度以上

★土器は焼くときの温度で色や硬さが違うようです。

「土師器」のような焼き方を「野焼き」といい、縄文時代や弥生時代から続く伝統的な土器の焼き方です。「須恵器」のように窯の中で焼く方法は、朝鮮半島から古墳時代中頃（約1,500年前）に日本に伝えられました。当時の最新の技術で作られた須恵器を手にしたとき、土師器に慣れ親しんでいた私達のご先祖様はその違いにさぞ驚いたことでしょう。その後須恵器は古墳時代の人々の生活に定着し、平安時代まで数百年にわたって利用されました。

### (豆知識) 土師器と須恵器の使い方

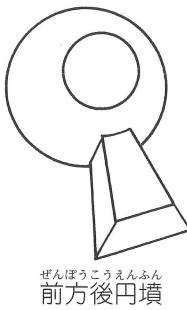
★土師器は、鍋や皿などとして使用するものが多く、須恵器は、水などを貯蔵する大きな甕や、酒などを入れると考えられる壺などとして利用されました。基本的には日常の生活用品として使用されていたと考えられます。しかし、発掘調査において土師器と須恵器の発見される場所は若干異なります。土師器は一般的な集落跡で多く発見されますが、須恵器が最も多く発見される場所は古墳など位の高い人々のお墓の中です。死者と共に埋納されるお供え物として多くの使用されています。

土師器よりも須恵器の方が高級品だったのかもしれませんね。

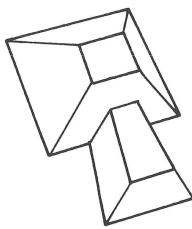
# こふん 古墳とはどんなもの

★龍王遺跡で発見された古墳  
は「前方後円墳」と呼ばれるもので、およそ1,500年前の古墳時代に作られたものです。さまざまある古墳の中でも位の高い人々のお墓として使用されるものです。他に右図のようないろいろな形の古墳があります。

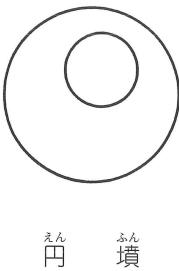
位が高く力をもった豪族達は、自分の力の大きさを見せつける為に大きなお墓をたくさんの人をつかって作らせました。大きなお墓を作るにはたくさんの人々と多くの時間、それとたくさんの財力が必要です。日本で一番大きな古墳である仁徳天皇陵は、長さ475m、高さ30mもの大きさの前方後円墳です。この古墳を作るには10数年の歳月が必要と考えられています。豪族達は自分が生きている間に自分の壮大なお墓を作らせて、死後もその力を子孫に見せつけようとしたのでしょうか。



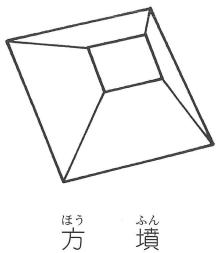
ぜんぱうこうえんふん  
前方後円墳



ぜんぱうこうほうふん  
前方後方墳



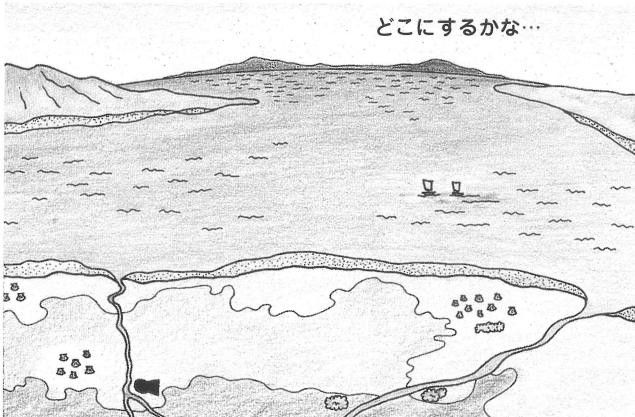
えん ふん  
円 墳



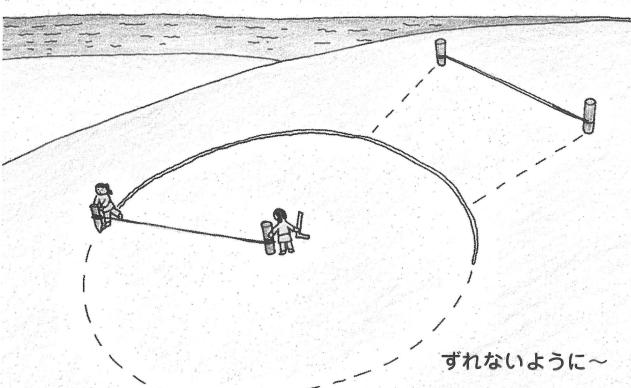
ほう ふん  
方 墳

## こふん 古墳はどんなふうにつくるの？

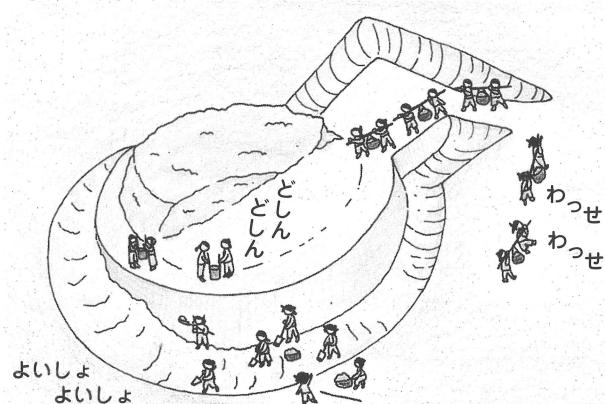
★立地条件の良い場所を探します。



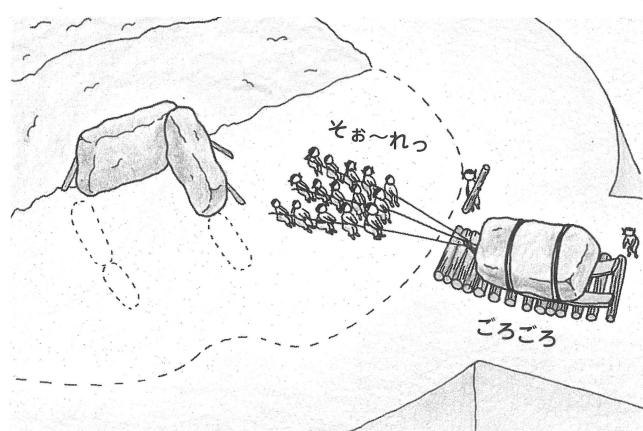
★現地を測量し設計図を描きます。↓



★鋤や鍬で地面を掘り、もっこで土を運びます。



★石を運び遺体を収める石の部屋を作ります。↓



★古墳は豪族の力や位により形や大きさが決まります。龍王遺跡の前方後円墳は長さ30m。島原半島一円を支配した豪族のリーダーだったのでしょうか。

りゅうおう いせき ぜんぱうこうえんふん ながしまばらはん  
こふん こうぞく ちから くらい かたち おお き  
とういちえん しはい こうぞく かた おお き  
龍王遺跡の前方後円墳は長さ30m。島原半島一円を支配した豪族のリーダーだったのでしょうか。  
さて、古墳が完成すると……

# こふん おこな 古墳で行われたお葬式

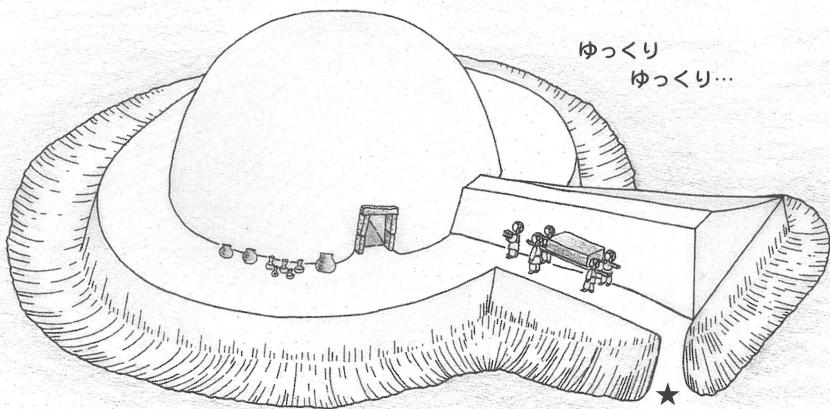
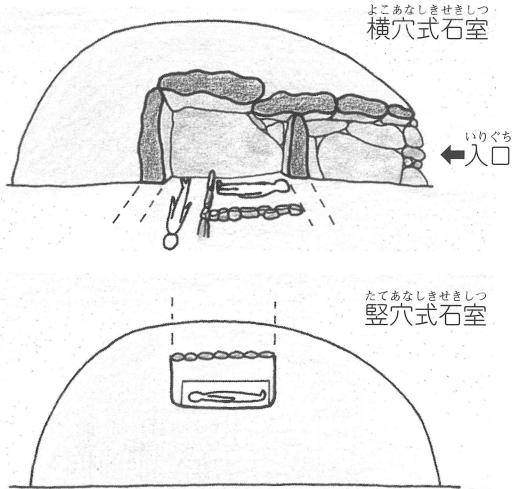
そうしき

★豪族は死後、棺に納められ、自分の住いから古墳まで長い葬儀の列と共に運ばれます。古墳でのお葬式は、一族挙げての一世代のイベントだったと思われます。

## こふん ししゃ まいそう 古墳に死者を埋葬する

★龍王遺跡で発見された前方後円墳では、どのようにして死者との最後の別れが行われたのでしょうか？

古墳の中心には遺体を安置する石の部屋（右上図）が作られていました。大きな石を組み合わせて部屋が作られ、出入口が一つ付けられており、その出入口から中に入れるようになっています。このような石の部屋を「横穴式石室」と呼びます。それより前には、古墳の頂上から穴を掘り遺体を安置する「竪穴式石室」（右下図）が利用されていました。こちらは出入口がありません。



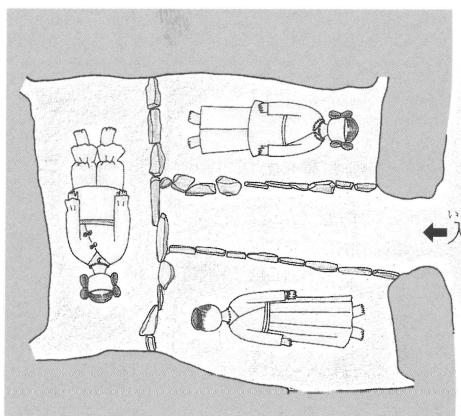
★龍王遺跡では古墳の周囲に溝が掘ってありました。石室前の溝の幅は2~3mほどあり、古墳を守るように周囲を取り巻いていました。簡単に石室に入ることは難しいようです。

しかし、前方部の一部（左図の★部分）で溝が途切れています。ちょうど人が通れるくらいの幅が掘り残されていて、ここを通り石室まで棺を運んでいったと考えられます。

### (豆知識) 二人目・三人目の埋葬=追葬

★横穴式石室は出入り口があるため、一人だけではなく、二人目・三人目と埋葬することができます。大きな古墳に一人だけではなく、その家族や子孫を埋葬することができるのです。右の図は高下古墳の石室を上から見た図です。石室の床は石で区切られ、4つに分けてありました。それは大人が横に寝転がれる程度の広さで、図のように遺体が安置されていたようです。このように後の世に二人目・三人目と埋葬することを「追葬」といいます。

☆高下（鬼の岩屋）古墳は雲仙市国見町多比良にある県指定史跡です。



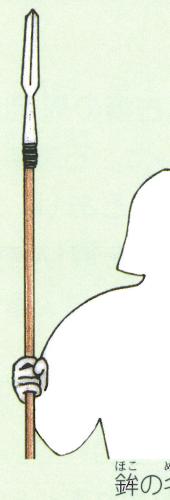
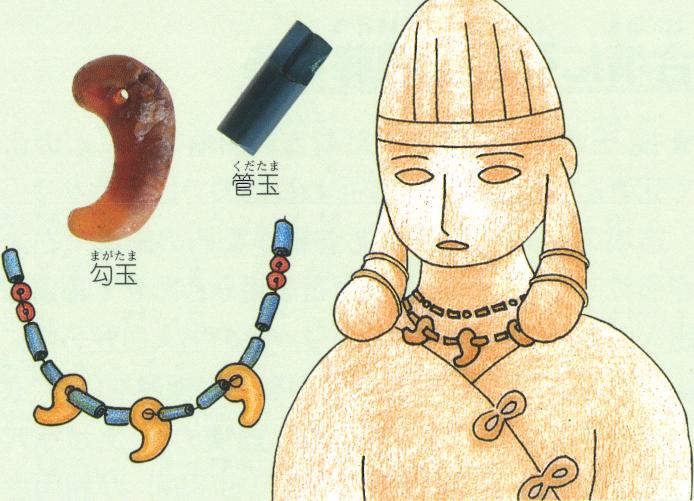
# こふん 古墳へのお供え物

★死者に供えられた品々には衣服・装身具・武器・工具・土器など様々なものがあります。特に石や金属で作られた品々は残りがよく、龍王遺跡の前方後円墳からも発見されました。



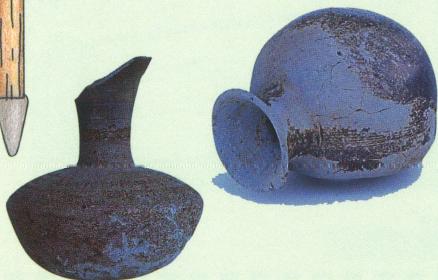
## みつしなじな そなうしんぐ 身に付ける品々(装身具)

★右の写真は、遺体とともに埋葬された勾玉と管玉です。首飾りの一部として利用されていたと思われます。右の絵は埴輪に着けられている首飾りを描いたものです。  
勾玉は瑪瑙、管玉は碧玉で作られています。瑪瑙や碧玉は現在でも宝石に利用される貴重な石です。千数百年昔の古墳時代から宝石として使されていました。



## どき 土器

★古墳には多くの土器が供えられていました。写真は古墳の周りに掘られた溝で発見された土器の様子です。いろんな形の土器がありますね。下の写真のようにほぼ完全な形で見つかる物もありました。



## ぶき こうぐ てつせいひん 武器・工具(鉄製品)

★「鉾」が一本、死者の足元付近から発見されました。鉾は長い柄がついており、槍のように突き刺して攻撃する武器の一つです。埋葬されたのは鉾の名手だったのでしょうか?  
鉾の横には「刀子」が発見されました。刀子は「ナイフ」の役割を果たす工具です。ハサミが登場するまではナイフは生活必需品の一つでした。



# こふんした 古墳の下には…

★発見された前方後円墳の下の土層には、縄文時代（約8,000年前）の遺跡と旧石器時代（20,000年以上前）の遺跡が眠っていました。たくさんの土器や石器が発見され、古墳が作られる遙か遠い昔は、縄文人や旧石器人が生活の場として利用していたようです。そこで、発見された旧石器時代の石器から当時の人々の暮らし振りを考えてみます。

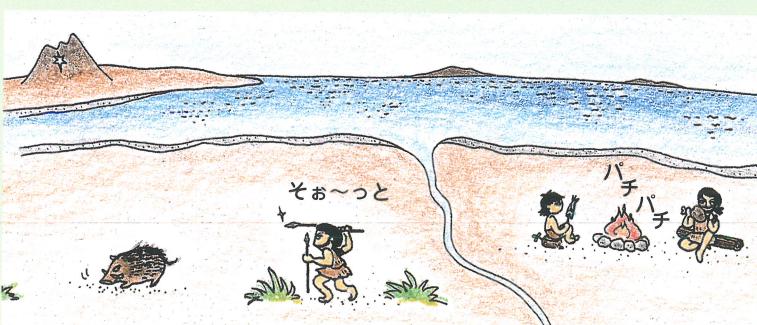
前方後円墳が発見された地面の約50cm下の土層から、20,000年以上前の旧石器時代の石器がたくさん見つかっています。石器は「黒曜石」と呼ばれる石を叩き割って作ったもので、割れた破片は非常に薄く鋭く、うかつに触れば怪我をするくらいです。非常に丁寧に作りこまれたもので、主に動物を捕まえる為の「槍」や捕まえた動物を解体する為の石器が発見されています。その他に、石器を作るときに出て「割りクズ」（黒曜石の破片）などが多く発見されています。石器と共に「割りクズ」が出るということは、この地で石器を作っていた証拠です。その「割りクズ」を見てみると…



「割りクズ」が大きいということは、元になる黒曜石も大きい。少なくとも数kg。しかもどうやら一つだけではなさそうです。



今回発見された黒曜石は遥か50km以上はなれた佐賀県伊万里市で採取されるものです。数kgの黒曜石を二つや三つ持ち上げることは簡単ですが、それを50km以上運ぶとなると…



旧石器人は直接運んできたのでしょうか、それとも物々交換などで手に入れたのでしょうか。いずれにしても遠い地域の石がこちらまで移動していることになります。遙か20,000年前、雲仙市のご先祖様の暮らしは思ったよりもダイナミックに広い原野を飛び回っていたのかも知れません。

# 雲仙市管内図

平成十七年十月

## りゅうおういせき 龍王遺跡

